

## — 随 想 —

## 鉄と子供と私たち

中山京子\*・岡口恭子\*  
手塚結香\*

## 1. 女性と製鉄所案内

私たちの会社が小学生の工場見学を受け入れはじめたのは今から10年前、地域社会との交流を深めるため、また5年生の社会科教育のために「日本鋼管へ見学にいらつしやいませんか？」という呼びかけをしたのが最初でした。それからだんだんと見学を希望される学校が増えてきて、現在では1年間に川崎市内と横浜市鶴見区内2万人の小学5年生が見学に来ています。さて、このような状況のもと、「今まで男性が担当していた工場見学の案内を、これからは女性の手でできないだろうか？」というところから私たちの見学物語が始まります。

何の前ぶれもなく突然この話が具体化したのは、昭和58年の6月のことでした。まさか実際に自分たちで案内の仕事を始めるとは夢にも思っていませんでしたので、その時、私たちの頭に浮かんだことは「私たちにできるのかしら…？」という不安だけでした。しかし決まってしまう以上、前向きにやつてみるしかない！そう心にかたく決めて行動を開始しました。

まず案内をするには工場を知らなくては…ということで私たち自身が工場見学に出かけました。何しろ工場を見たのは入社57年4月以来2度目のこと、何を見ても目新しく、初めて見る小学生のように感嘆の声をあげながらの見学でした。実際に7月からは一般見学のお客様に同行させていただいたりもしました。案内者がどう説明しているか、とても興味深いものがありました。とにかく見学コースを覚えること、工場に慣れることを目標として、仕事の合間をぬつてできるだけ数多く現場に出るようにしました。同時に他の会社で女性が見学案内をしているところへ勉強に出かけたりもしました。それから見学のマニュアル、いろいろな資料等に目を通しましたが覚えなくてはならないことが山ほどありました。

勉強に励むこと3カ月、9月に入つて2学期が始まり、小学生が元気いっぱい見学に来るようになりました。いよいよ出番がきました。服装は安全面や見学者に好印象を与えることなどを配慮して、紺のストラップス、ブルーのシャツ、グレーのジャケット、青いヘルメット、女性用安全靴に決めました。たまに「ホテルのドアボーイのようだ」と言われることもありますが、評判も良く、私たちも大変気に入っています。最初は、男性の案内するバスに同乗し、小学生と一緒に勉強しましたが、10月に入るとこのユニフォームを身につけいよいよ

\* 日本鋼管(株)京浜製鉄所



ヘルメットをかぶつて、さあ出発！



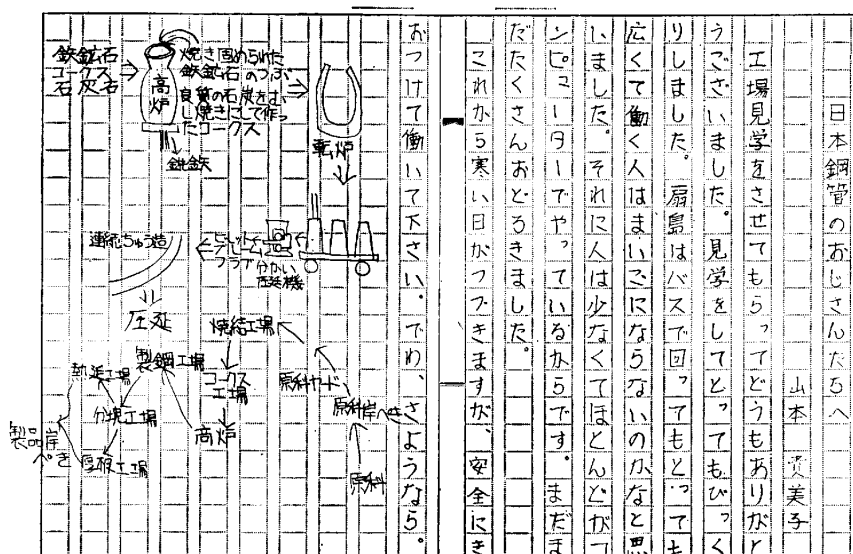
車内説明用に作った高炉のパネル

よ一人一台のバスを受け持つようになりました。

小学生の見学が終わつた後の時間にはマニュアルの見直しをしたり、女性の目から見た各場所の要点だけをまとめ、分かりやすい説明を考えたり、よりよい案内のためのくふうをしました。例えば、溶鉱炉の説明の仕方では、いままでは90段の階段を登り見学室に入つて説明していたのですが、日によつては出鉄状態もよく見えず、また高所恐怖症の子がいたりしてたいへんでしたので見学室に入るのをやめ、そのかわり溶鉱炉の下をバスでゆつくり走り、出鉄やスラグの流れる状態を見せながら説明をするようにしてきました。さらにもつと分かりやすい方法はないかと考えた結果溶鉱炉の外観と中での作業を書いたパネルを作りました。これは子供たちにも評判良く、私たちも満足しています。

案内に関する業務はこの他にも、小学校からの見学受付、電話での問い合わせ対応、確認パンフレットの整





見学した小学生の感想文  
山本貴美子さん（川崎市立南河原小学校）

とに子供たちの表情が真剣になつてきます。

やがて、西海岸の出荷岸壁についている初航海の中国の船を横目に見ながら目的の工場に向かうと「早く工場を見たい。」という子供たちの声——。そんな声を聞きながらようやく薄鋼板を作る熱延工場へと着きます。

工場では地上から 8m の高さの見学通路を 500m ぐらい歩くのですが、高所恐怖症の子供は音と真赤になつた鉄の板を見て尻込んでしまいます。大きな塊を見る間に薄くなりトイレットペーパーのように巻き付けられていく様子は小学生ばかりか私たち自身も何度見ても飽きません。子供たちは釘付けになり夢中で見入っています。

感激の余韻を残したままバスは PR センターへもどつて来ます。さてこれから今まで見てきたことの質問の時間です。「パイプを全部継なげるとどのくらいの長さになりますか」「頭がよくないと会社に入れないうですか」と奇想天外の質問が飛び出すたび一瞬困りますが、その所はどうやらうまく切りぬけます。私たちも一応案内のプロなのでですから……。2時間 30 分余りの工場見学が終わり PR センターで小学生とお別れします。

バスの窓からいつまでも手をふつっている小学生の姿を見ていると、とつともうれしくなります。

現在、私たちにはまだ仕事をふりかえる余裕などありませんが、見学案内の仕事についてから 6 か月たち、多

くの子供たち、先生方から見学後の感想、御礼などをいただく、この仕事がこんなに子供たちに喜ばれ、また学校教育に少しでもお役にたつていことがわかりました。入社して 3 年、仕事は会社内のことと思つていました。しかし男性にかわつてこの仕事を体験し、企業と社会との関係、鉄と子供たちとのかわり…私たちは今、大切な仕事を始めていることをあらためて感じています。

お礼のお手紙が遅れて本当に申しわけございませんでした。あの日見た鉄の出来るまでの様子、さっそく授業でも生かすことができ心より喜んでます。特に溶鉱炉から流れ出る真赤な鉄には本当に驚いていました。また、工場内の様子のみならず、環境についても驚いていたようです。「まさか大工場のまわりに自分達のまわりにある樹木より多くの緑があるとは」子供達は異口同音にそんなことを言っていました。

これからも私共の学校の児童あるいは、市内のいろいろな学校が工場見学に来ることと思いますが、宜しく御指導いただきたく存じます。まわりに工場のない地域の学校にとって日本鋼管の心温まる御好意は本当にありがたいものです。

誠に言葉足らずではございますが、御礼の気持ちにかえさせていただきますと思います。

川崎市立南河原小学校 5年担任一同

見学した小学校の先生からの礼状